

次世代につながる下津みかん産地への取り組み ～将来ビジョン共有化による魅力向上～

活動期間：平成30年度～令和2年度

和歌山県
【重点プロジェクト計画】

- 海南市下津地域は歴史ある貯蔵みかん産地であるが、**個選農家が多く、産地全体の方向性など共通認識を持って取り組みを行うことが難しい**。また、**担い手の減少や農業者の高齢化等により産地の衰退が懸念**される。
- そこで、下津みかん産地としての課題や将来ビジョンを農業生産に携わる農業者、JA、行政等が共有し、個性を生かした取り組みを実現するための仕組みと人づくりを目ざして普及活動を展開。
- その結果、産地の**現状や課題を農業者と関係機関が共有**し、課題解決に向けた取り組みを進めることで、**産地を次世代につないでいくための第一歩を踏み出す**ことができた。

具体的な成果

普及指導員の活動

1. 課題の共有と将来ビジョン及び実行計画の作成と実践、次期取組内容の決定

■ 農業者自らが調査して**産地の現状と課題を認識**

■ 農業士等を中心に**産地活性化に向けた機運が高まった**

2. 産地を次世代につないでいくための推進体制整備

■ 農業者代表や関係機関を構成員とする**ワーキングチームを設立**

(構成員)

農業者団体代表

JA、市、県(普及)

その他(必要に応じて)



3. 産地への新たな導入品種の決定

■ 3年間の継続調査により、地域の特産である貯蔵みかんに適した**浮皮の少ない品種として「植美」を選定**

4. 農繁期における労働力の安定確保に向けた下津オリジナル援農体制の構築

■ 関係機関同士の**連絡調整役を担い**、地域内における農繁期の労働力確保に寄与

■ 産地から要望のあった**「援農に係る心得」、「援農に係る新型コロナウイルス感染症対策チラシ」を作成**

平成30年

■ ワーキングチーム設立に向けた検討

■ 「海南・下津の将来を考える集い」開催

■ 優良系統候補の栽培状況調査及び食味評価検討会

■ 援農体制構築に向けた検討

令和元年

■ ワーキングチーム(2回)

■ 栽培技術向上及び農作業省力化に関する研修会

■ 優良系統候補の果実品質調査及び食味評価検討会

■ 援農実態把握及び農業者との意見交換

令和2年

■ 将来ビジョン実行計画の実践推進と取組結果の分析

■ ワーキングチーム(2回)

■ 温州みかん樹形改造及び優良園地巡回研修会

■ 優良系統候補の果実品質調査及び導入品種決定検討会

■ 援農取組者との定期的な意見交換

普及指導員だからできたこと

農業者や関係機関との対話をこれまで以上に設けることで、**産地の実情や意見をより反映した普及活動を展開**することができた

次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み ～将来ビジョン共有化による魅力向上～

活動期間：平成 30～令和 2 年度

1. 取組の背景

下津地域は日本農業遺産に登録された歴史ある貯蔵みかん産地であるが、個選農家が多く、産地全体の方向性など共通認識を持って取り組みを行うことが難しい。また、担い手の減少や既存組織の高齢化に伴う活動の硬直化等により、産地の衰退が懸念される。このような状況をふまえ、下津みかん産地としての課題や将来ビジョンを農業生産に携わる農業者、JA、行政等が共有し、個性を活かした取組を実現するための仕組みと人づくりを旨として計画した。

2. 活動内容

1) 将来ビジョンの共有化

ア 将来ビジョン実行計画の実践

4 月に下津町農業士会（15 名）、5 月～7 月に下津町農業研究青年同志会役員（3 名）、JA ながみね下津柑橘部会役員（4 名）に対し、新規就農者の定着促進や労働力の確保対策、農業経営の安定などにつながる取組をまとめた将来ビジョン実行計画の内容について説明した。また、4 月～3 月に指導対象者延べ 100 名以上に対して個別に実行計画の実践を推進した。

10 月に下津地域の将来を担う子供達に下津みかん産地の現状と課題について理解してもらうため、下津町農業士会役員が講師となり、下津第 2 中学校 2 年生（38 名）を対象に「下津みかんに関する出前授業」を開催した。



下津町農業士会総会での実行計画説明



下津みかんに関する出前授業

イ 取組結果の分析による次期取組等の決定

9 月、3 月に海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム会議を開催し、実行計画の実践状況や次期取組内容について検討した。

2) 魅力ある園地へのチャレンジ推進

ア 改善技術導入推進（下津町農業士会主催研修会）

4月に下津地域内の温州みかん園において「温州みかん樹形改造研修会」を開催した（参加者：16名）。10月に下津地域内の①園内道整備及び鳥獣害対策園、②ゆら早生完熟栽培園、③園地改造園（造成を伴うフラット化）において「会員の優良園地巡回研修会」を開催した（参加者：11名）。



温州みかん樹形改造研修会



会員の優良園地巡回研修

イ 改善モデル園の設置

4月～10月に改善モデル園（樹形改造（2ヶ所）、マルチ敷設による高品質果実生産（2ヶ所）、ゆら早生完熟栽培（1ヶ所）を下津地域内に設置した。

ウ 優良系統見本園管理及び優良系統調査の実施

4月～3月にJAながみねと連携して、昨年度設置した優良系統見本園の管理及び定植苗木の生育状況を9回調査した。9月にJA営農指導員と下津地域内の優良系統導入園地を巡回し、樹の生育状況や着果状況を確認のうえ昨年度作成した導入園地マップの更新を行った。

12月～2月に貯蔵みかんに適した優良系統候補6系統の調査園を設置し、果実品質や貯蔵性調査を実施した。また、2月にJA営農指導員と優良系統調査結果に関する検討会を開催した。

エ 継ぎたくなる農業推進パンフレットの作成

下津町農業士会役員会（3回）や9月、3月に開催した海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム会議で下津地域における近年の新規就農者数や経営モデル、先輩就農者の声、活用できる支援策などを記載した新規就農希望者の参考となるパンフレットの作成について検討した。

3) 選ばれる産地の体制づくり

ア 援農受入体制の整備

9月、3月に海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム会議を開催し、下津地域における援農体制の構築、「援農に係る新型コロナウイルス感染症対策チラシ」の作成、今年度の援農実績及び課題等について検討を行った。また、JAながみねや援農主催者と情報交換を10回以上実施した。

イ 農業士等への研修受入等推進

4月に開催した農業士会総会や農業士会役員会（3回）において、新規就農者を受け入れやすい環境づくりやサポート体制等について意見交換を実施した。

ウ 産地 PR 活動

4月に関係機関と下津地区における新規就農者確保に関する意見交換を実施するとともに、9月、3月に開催した海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム会議で産地 PR 用チラシの作成について検討した。

1月に下津みかん産地の魅力を発信することを目的に、報道機関向けの「蔵出しみかん」蔵見学会を開催した。

3. 具体的な成果

1) 将来ビジョンの共有化

将来ビジョン実行計画の実践について普及啓発を図った結果、下津みかん産地の多くの農業者が計画の意義を理解し、次世代に産地をつないでいくためには地域内の関係者が一致団結して課題解決に取り組むことが重要であるとの認識を共有することができた。

海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチームや農業士会役員会で産地の課題等について議論を重ね、産地の現状に即した次期取組（新規就農の確保、植美の導入、省力化施設及び機械の導入、担い手への農地流動化）を決定した。

2) 魅力ある園地へのチャレンジ推進

農業士会主催研修会の開催や改善モデル園の設置により、中堅、若手農業者を中心に栽培技術の向上を図ることができた。

優良系統調査の今年度と過去2年間の結果を踏まえて、産地への新たな導入品種を「植美」に決定した。

新規就農希望者向けに経営モデル、主な支援策等に関するパンフレットを作成した。

3) 選ばれる産地の体制づくり

JA ながみねと蜜柑援農を核とした下津オリジナル援農体制を構築することができた。また、援農者受入農家、援農者向け「新型コロナウイルス感染症対策チラシ」を配布し、感染防止対策を推進した。

下津町農業士会員を中心に新規就農希望者の良き相談相手としてサポートする体制（サポーター20名）を整えることができた。また、農業士会員がサポートした新規就農希望者1名が下津地域内で就農した。

新聞やラジオ等により「蔵出しみかん」を中心とした下津みかん産地を PR することができた。

新規就農者の確保を図るため下津みかん産地の PR 用チラシを作成した。

4. 農家等からの評価・コメント（海南省下津町 E氏）

新型コロナウイルスの影響で農業士会活動が難しい状況であったが、普及指導員と協議を重ねて、栽培技術の向上に係る研修会や地元中学校での出前授業などに取り組むことができた。また、援農者受入農家、援農者向け「新型コロナウイルス感染症対策チラシ」は自身が援農者を雇用する際に大変参考にすることができた。今後も農業者との関係を緊密にして産地のニーズに沿った普及活動を期待したい。

5. 普及指導員のコメント（海草振興局農業水産振興課・主査・嶋田勝友）

今年度は農業者への個別訪問を中心に農業士会役員会や関係機関と農業者代表で組織する海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム会議を定期的で開催するなど産地全体の意見や要望を幅広く収集する普及活動を展開した。その結果、産地の意見を反映した次期取組の決定や新品種「植美」の導入、産地の要望に基づいた援農者受入農家、援農者向け「新型コロナウイルス感染症対策チラシ」の作成につなげることができた。

6. 現状・今後の展開等

下津みかん産地では農業者の高齢化や後継者不足が問題となっているが、近年は特産の「蔵出しみかん」を中心に販売価格が安定し、平成 31 年 2 月には「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定されるなど産地にとって追い風が吹いている。また、これまでの普及活動で農業士会員等を中心に産地の危機を認識し将来に向けて活性化したいという機運も高まっていることから、引き続き JA ながみね、海南省等の関係機関と一体となって次世代につなぐ下津みかん産地の活性化につながる取り組みを進めていく。



下津みかん産地